

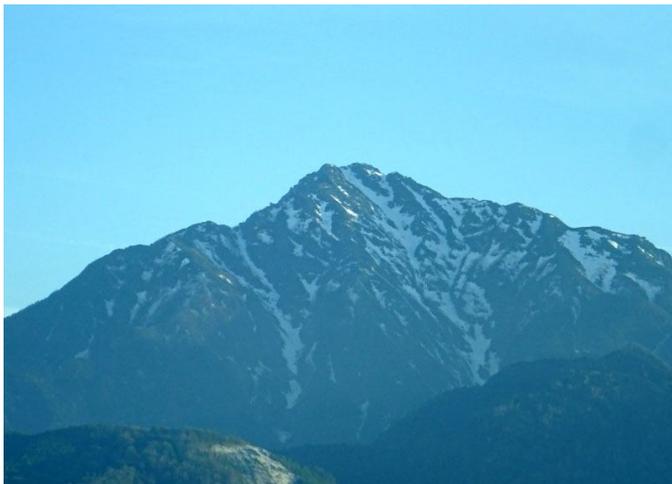
「中央本線の車窓(9)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

鳳凰三山を左に見て、その先に更に大きな山が見える。素人目にも明らかに名のある山とわかる、秀麗で堂々たる山容だ。甲斐駒ヶ岳である。中央本線の車窓から見える山で、最も美しい山だと思う。



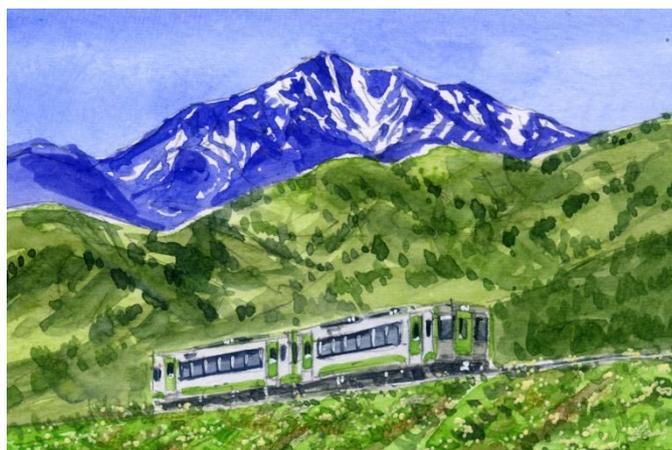
「駒ヶ岳」と名のつく山は、全国に数多く存在する。略して「会津駒」「木曾駒」「秋田駒」などと呼ばれている。「甲斐駒(かいこま)」はその中でも標高が一番高く、古今、多くのアルピニストの憧れの山である。



標高こそ三千にわずかに足りないが、甲斐駒の登山道は険しく山深い。かなり山なれた人でも、登るには相応の覚悟、一念発起が必要な山だ。



中央本線から見ると、甲斐駒山頂に左手に寄り添うように、ドーム状の突起がある。「摩利支天」と呼ばれるピークだ。「摩利支天」とは、仏教で「陽炎」を意味し、山岳信仰の一端として名づけられたものだ。私はかつて、甲斐駒にも摩利支天にも登ったことがあるが、今回は車窓から「参拝」することにした。



「甲斐駒と小海線」 画 ; C.Tanaka



小淵沢駅が近づくと、今度は右車窓にヤツ(八ヶ岳)の連嶺が見えてくる。写真手前の土手は、小海線線路の築堤である。下車駅の茅野も近い。